

令和5年度 野菜研究室 試験計画概要

中課題	小課題	細目課題	研究内容	新継年次別
にらの新品種育成 (平6～)	周年生産用品種の育成	—	省力的に周年生産可能な高品質・多収品種を育成する。	継 続 平12～
	夏期生産用品種の育成	—	高温期の葉先枯れに強く、抽だい期が短い夏期生産用品種を育成する。	継 続 令4～
トマトの夏季安定生産技術の 確立(平31～令5)	夏季安定生産を可能とする 環境制御技術の開発	—	夏季の冷却制御、梅雨に対する光制御法など効果的な環境制御方法について検討する。	継 続 平31～令4
	夏越し型のトマト養液栽培体 系の確立	—	栽培技術を組み合わせて収益性が見込める栽培体系を確立するとともに、労働者の健康面の安全が確保できる作業体系を構築する。	継 続 令3～5
局所加温技術及び省力技術 開発によるトマトの高収益栽 培体系の確立(令4～7)	局所加温による多収化技術 の開発	—	果実肥大、蒸散及び根の吸収機能が促進される条件をグローブパイプや地中加温を利用して解明し、11～3月に果実肥大を促進し、収益性を向上させる技術を確立する。	継 続 令4～7
	誘引方法の省力化技術の開 発	—	作業の効率化が図れる誘引方法や誘引器具の改良など、各誘引方法の効率性を比較検証し労働生産性の高いトマト栽培技術を確立する。	継 続 令4～7
水田に適した加工・業務用露 地野菜の品目選定と多収安 定栽培技術の確立(令2～6)	本県の栽培環境に適合する 露地野菜品目の選定	—	本県の栽培環境に適合する品目、品種、作型を選定する。	継 続 令2～5
	加工・業務需要に応える野菜 生産技術の確立	—	需要者の求めに対応した収量・品質・出荷期間など野菜の生産技術を確立する。	継 続 令2～6
土壌環境の改善によるアスパ ラガス多収栽培体系の構築	土壌環境改善による多収栽 培体系の構築	—	土壌環境改善技術の現地実証試験を実施する。	継 続 令3～5
ウォーターカーテン保温によ るにら高品質安定生産技術 の確立 (平31～令6)	栽培方法が地上部、地下部 に及ぼす影響の解明	—	WC(ウォーターカーテン)保温において、定植や保温開始時期、温度管理等の環境が地上部や地下部に及ぼす影響を把握する。	継 続 令2～5
	高品質安定生産技術の実証	—	WC(ウォーターカーテン)保温を活用したニラの品質において、定植や保温開始時期、温度を維持しつつ収穫回数を増やすための栽培様式、及び夏季の抽だい時期の分散技術を組合せた高品質安定生産技術を実証する。	新 規 令5～6
園芸作物の優良品種選定 (昭38～)	野菜の優良品種選定	—	主要な野菜の優良品種の選定を行う。	継 続 昭38～
生育調整剤・除草剤の適応 性試験 (昭38～)	野菜の生育調整剤・除草剤 の適応性検定	—	日本植物調節剤研究協会(日植調)の試験設計により適応性を調査する。	継 続 昭42～